

徳島赤十字病院医学雑誌編集及び投稿規程

[編 集]

1. 本誌は広く医学に関する総説・原著・臨床研究・症例報告・統計・業績等で未発表のものを掲載し、年1回以上発行する。
2. 本誌の編集は徳島赤十字病院医学雑誌編集委員会が行う。
3. 本誌に掲載された原稿の著作権は、徳島赤十字病院に帰属する。また、本誌の内容は徳島赤十字病院ホームページ、または赤十字リポジトリ上に公開されるものとする。

[投 稿]

<投稿資格>

筆頭著者は徳島赤十字病院勤務者および関係者に限る。ただし、編集委員会から依頼した者はこの限りでない。

<執筆要項>

1. 簡潔明瞭にまとめること。本文は口語体（である調）とする。できるだけ日本語で表記し、カタカナ表記や英語表記は避ける。
2. 論文の長さは、図・写真を含め、原稿用紙（1枚400字）で総説・原著は30枚、臨床研究・症例報告は15枚をめどとする。図・写真は1枚につき原稿用紙1.5枚に換算する。
3. 論文はパソコン等で入力し、プリントした原稿と一緒に電子媒体で提出する。
4. 論文は次の順序で記載する。
 - 1) 表紙：題名、著者名、所属を和文と英文で併記する。
 - 2) 要旨：400字以内（総説・原著は600字以内）に目的、方法、結果等を和文と英文でまとめること。Key wordsを3～5個つける。
 - 3) 本文：原著、臨床研究等は次の順序で記載する。

はじめに
対象および、方法
結果（成績）
考察
おわりに
 - 4) 文献：引用順に右肩に文献番号¹⁾、^{2)～6)}を付す。著者が3名以内の場合は全員の名前を記載し、それ以上の場合は最初の3名まで名前を記載し、後は（、他）または（、et al）とする。電子文献の場合は、著者：タイトル[媒体]、URL、[アクセス日]を加える。

例1) 大谷龍治、日浅芳一、木下学、他：中隔枝単独閉鎖による急性心筋梗塞の1例。心臓 1994；26：1134-8

例2) Berland J, Rocha P, Choussat A, et al: Balloon mitral valvotomy by using the Twin-AT Catheter, Catheter Cardiovasc Diagn 1993；28: 126-33

例3) 日浅芳一、近藤直樹、藤永裕之：ロングバルーンの基礎と臨床。延吉正清、山口徹編「Interventional CardiologyにおけるNew Device」, 東京：三輪書店 1995；p273-82

例4) Open Access Japan: Open Access Japanの創設にあたって[internet].
<http://www.openaccessjapan.com/about.html> [accessed 2010-02-26]
 - 5) 図・表：図（写真）・表は別に添付し、それぞれの表題について、図は下方に、表は上方に記す。それぞれの説明は下方に記す。
 - 6) 数字は「1, 2, 3…」等アラビア数字半角を使う。
5. 病理学的所見が重要な役割を果たす場合には論文作成に関与した病理医を共著者に加える。
6. 原稿の採否や字句の訂正、用語の統一等は編集委員会に一任する。
7. 校正は著者校正1回とする。
8. 掲載料は無料とし、希望する筆頭著者には別冊30部を贈呈する。

<利益相反>

1. 徳島赤十字病院「倫理委員会利益相反部会規程」に基づき、著者（共同著者を含む）は投稿論文の研究について利益相反状況を開示しなくてはならない。「利益相反状況に関する自己申告書」を必ず提出し、論文の末尾に利益相反状況を明記する。